

# 令和6年度活動報告

令和6年度活動の[A 概要]及び[B 詳細]は次のとおり

## A 概要

原子力事業所安全協力協定（以下「東海ノア協定」という。）令和6年度年間活動基本計画に基づき、安全協力委員会及び活動推進幹事会の開催、自主保安に係る点検協力活動、安全教育に係る協力活動、情報の交換等に係る協力活動を通じて、東海ノア協定事業所の施設と安全確保と従業員の資質の向上を図るとともに、安全意識の向上に努めた。

また、緊急事態発生時の協力要請に備え、緊急事態を想定した協力活動訓練を行うとともに、協力体制を整備した。

- (1) 安全協力委員会は2回（令和6年10月30日、令和7年3月12日）開催した。
- (2) 活動推進幹事会は4回（令和6年6月11日、令和6年9月27日、令和6年12月19日、令和7年3月3日）開催した。
- (3) 自主保安に係る点検協力活動は、令和6年11月27日に、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構那珂フュージョン科学技術研究所を対象事業所として実施した。  
東海ノア協定加盟全事業所の「安全管理及び保安管理」に役立てていただくため、良好事例を東海ノア協定加盟全事業所に展開した。
- (4) 安全教育に係る協力活動では、「第1回安全教育」を令和6年10月1日に日本原子力研究開発機構原子力人材育成センターで、「第2回安全教育」を令和7年2月13日に日本原子力発電株式会社東海事業本部東海総合研修センターで開催した。
- (5) 安全教育に係る点検協力活動の「自衛消防隊研修会」は、令和6年9月6日に開催した。
- (6) 情報の交換等に係る協力活動では、東海ノア協定加盟事業所で発生した「火災等の事故、トラブル関連情報」が、発災事業所から東海ノア協定加盟全事業所に発信された。
- (7) 緊急事態を想定した協力活動訓練では、東海ノア協定加盟全事業所を対象とした茨城県通報連絡訓練での訓練想定に「東海ノア協定事務局への通報（協力要請）を実施する。」が含まれていた4回について、発災事業所から東海ノア協定事務局へ通報（協力要請）を行った。

また、そのうち1回に連動して、初動通報連絡及び東海ノア協定加盟全事業所から緊急事態協力活動本部への出勤者名簿のFAXを行う「東海ノア総合訓練」を実施

した。

緊急事態協力活動本部要員等に変更が生じた都度、緊急事態協力活動本部要員登録者等を更新して、緊急事態発生時における協力体制を整備した。

- (8) 令和7年2月25日(月)に実施された日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所を発災事業所とする非常事態総合訓練及び日本原子力発電株式会社 東海発電所・東海第二発電所を発災事業所とする原子力防災訓練で、発災事業所である原子力科学研究所、東海発電所・東海第二発電所からの情報提供を受け、東海ノア協定加盟全事業所に電子メールによる情報共有を行う訓練を実施した。
- (9) 茨城県保健医療部保健政策課からの依頼に基づき、「緊急被ばく医療関連情報連絡会原子力事業所見学会(見学施設:日本原子力発電株式会社東海第二発電所)」の開催案内を東海ノア協定加盟全事業所に展開するとともに、参加者を取りまとめた。
- (10) 茨城県保健医療部保険政策課からの依頼に基づき、「緊急被ばく医療関連情報連絡会講演会(演題「今そこにある被ばくー医療での被ばく調査研究から見えてくる現状ー)」の開催案内を東海ノア協定全加盟事業所に展開するとともに、東海ノア協定加盟事業所からの参加者を取りまとめた。
- (11) 東海ノア協定ホームページを活用し、原子力事業所の安全協力協定に基づく活動を紹介した。

## B 詳細

### 1. 安全協力委員会の開催（2回）

#### （1）第51回安全協力委員会（オンライン会議）

【開催日】 令和6年10月30日（水）

【議 題】

- 1) 第50回安全協力委員会議事録について
- 2) 原子力事業所安全協力協定 安全協力委員会委員等の変更について
- 3) 令和6年度上期活動状況報告及び下期活動計画（案）について
- 4) その他



第51回 委員会の様子

#### （2）第52回安全協力委員会（対面で開催）

【開催日】 令和7年3月12日（水）

【議 題】

- 1) 第51回安全協力委員会議事録について
- 2) 原子力事業所安全協力協定加盟事業所名称の変更等について
- 3) 令和6年度活動報告について
- 4) 令和7年度年間活動基本計画（案）について
- 5) 原子力事業所安全協力協定の一部改正について
- 6) 原子力事業所安全協力協定 緊急事態協力活動要領及び緊急事態協力活動マニュアルの一部改正について
- 7) 東海第二発電所 中央制御室内制御盤における火災の発生について
- 8) 協定加盟事業所の近況について
- 9) その他



第52回 委員会の様子

### 2. 活動推進幹事会の開催（4回）

#### （1）第107回活動推進幹事会（対面）

【開催日】 令和6年6月11日（火）

【議 題】

- 1) 第106回活動推進幹事会議事録について
- 2) 原子力事業所安全協力協定 安全協力委員会委員等の変更について
- 3) 令和6年度安全教育に係る協力活動について



第107回 幹事会の様子

- 4) 令和6年度情報等の交換に係る協力活動について
- 5) 令和6年度緊急事態を想定した協力活動訓練について
- 6) 原子力事業所安全協力協定 緊急事態協力活動要領及び緊急事態協力活動マニュアルの一部改正について
- 7) 協定加盟事業所からの事業所紹介について  
(量子科学技術研究開発機構 那珂フュージョン科学技術研究所)
- 8) 第106回活動推進幹事会における懸案事項の回答について
- 9) その他

(2) 第108回活動推進幹事会 (オンライン会議)

【開催日】 令和6年9月27日 (金)

【議 題】

- 1) 第107回活動推進幹事会議事録について
- 2) 原子力事業所安全協力協定 安全協力委員会委員等の変更について
- 3) 令和6年度自主保安に係る点検協力活動計画 (案) について
- 4) 令和6年度安全教育に係る協力活動について
- 5) 令和6年度情報の交換等に係る協力活動について
- 6) 令和6年度緊急事態を想定した協力活動訓練について
- 7) 令和6年度上期活動報告及び下期活動計画 (案) について
- 8) その他



第108回 幹事会の様子

(3) 第109回活動推進幹事会 (オンライン会議)

【開催日】 令和6年12月19日 (水)

【議 題】

- 1) 第108回活動推進幹事会議事録について
- 2) 原子力事業所安全協力協定 緊急事態協力活動本部 (大洗地区) 副本部長の変更について
- 3) 原子力事業所安全協力協定 事業所一覧等の変更について
- 4) 令和6年度自主保安に係る点検教育活動について
- 5) 令和6年度安全教育に係る協力活動について
- 6) 令和6年度情報の交換等に係る協力活動について
- 7) 令和6年度緊急事態を想定した協力活動訓練について
- 8) 原子力事業所安全協力協定 緊急事態協力活動要領及び緊急事態協力活動マニュアルの一部改正について
- 9) 協定加盟事業所からの事業所紹介について



第109回 幹事会の様子

(株式会社ジェー・シー・オー 東海事業所)

10) その他

(4) 第110回活動推進幹事会(オンライン会議)

【開催日】 令和7年3月3日(月)

【議 題】

- 1) 第109回活動推進幹事会議事録について
- 2) 令和6年度安全教育に係る協力活動について
- 3) 情報の交換等に係る協力活動について
- 4) 令和6年度緊急被ばく医療関連情報連絡会原子力事業所見学会への参加について
- 5) 令和6年度緊急被ばく医療関連情報連絡会講演会への参加について
- 6) 令和6年度活動報告について
- 7) 令和7年度年間活動基本計画(案)について
- 8) 原子力事業所安全協力協定書の一部改正について
- 9) その他



第110回 幹事会の様子

### 3. 自主保安に係る点検協力活動

自主保安点検協力活動は、点検対象事業所に核燃料物質使用施設、放射性物質取扱施設等の安全担当実務者又は防火管理の実務担当者等から構成されたチームを派遣して、現場巡視、質疑応答、意見交換を行い、対象事業所における自主保安点検活動に第三者の立場から協力するものである。

そして、点検結果が対象事業所における安全管理及び保安管理に役立てられるとともに、良好事例等を他事業所へ紹介することにより、東海ノア協定加盟全事業所の安全管理及び保安管理にも役立つことを期待するものである。

【実施日】 令和6年11月27日(水)

【対象事業所】 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構  
那珂フュージョン科学技術研究所

【点検協力実施者】

- ・三菱原子燃料株式会社
- ・東北大学金属材料研究所附属量子エネルギー材料科学国際研究センター
- ・日揮ホールディングス株式会社 技術研究所



点検協力活動の様子

## 【事業所の概要】

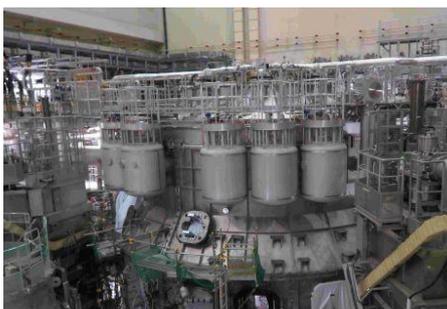
那珂フュージョン科学技術研究所は、量子科学技術研究開発機構量子エネルギー研究分野の中核研究所の一つとして、核融合反応で発生するエネルギー（フュージョンエネルギー）を生み出すための研究開発を行っている。

本研究所の整備が始まったのは、1979年で、日本のプロジェクトとして臨界プラズマ試験装置 JT-60 が建設され、1985年4月に実験開始に合わせて研究所が発足した。これまで、イオン温度 5.2 億度、エネルギー増倍率（等価換算値）1.25 などを達成し、世界のフュージョンエネルギー研究開発を牽引してきた。

### 1. 現状

50万kwのフュージョンエネルギーの発生を世界で初めて実証するための国際プロジェクトである「核融合実験炉ITER」計画に対して、主要機器の調達を担当している。調達にあたり、日本の産業界の持つ技術力を統合する体制を進めている。

日欧協力活動「核融合エネルギー研究分野における幅広いアプローチ（BA）活動」の一つである、サテライト・トカマクJT-60SA計画も進めており、JT-60SAでは、ITERを先導する実験を行うとともに、プラズマ形状による性能の違いを幅広く調べることで、経済性に優れた核融合炉に向けた高性能プラズマの開発を進めている。JT-60SAについては、2020年3月に完成、2023年10月23日に初プラズマ達成、その後はプラズマ体積を160m<sup>3</sup>まで拡大して2024年9月にギネス世界記録にも認定され、ITERの運転開始に向けて、技術的な道筋を確立した。また、2024年1月より、加熱装置等の増強工事が実施されている。



JT-60SA 本体



ギネス世界記録認定

今回の重点項目は、次のとおりであった。

○安全管理・保安全管理〔安全管理計画〕

- ・各種活動へのトップのコミットメント（安全管理計画）
- ・法令改正対応状況（安衛則（化学物資 RA など））
- ・スキル管理（教育訓練）

○緊急時の対応

- ・夜間・休日の通報連絡体制（指定時間内での通報連絡）

○現場状況確認

- ・必要な表示の有無（法令改正対応）
- ・管理区域出入管理

○その他

- ・近隣原子力事業所における火災

良好事例・意見等については以下のとおりであった。

1) 良好事例

- ①安全文化に関して、ポスター掲示が各建屋でそれぞれ工夫されている。カラフルでよい。



構内緊急通報に係る流れ図掲示



作業主任者の職務掲示



感電防止掲示



回転物注意掲示

②現場でヒヤリハットになったら何秒以上声を出すように掲示されていた。

ヒヤリハットに力を入れている。ヒヤリハット発生時の運用手順書を作成している。（事前に危険の目を摘むという点でよい）

## 2) 気づき事項

①消火器が、通路に置いてあるだけの箇所が何か所かみられた。スタンドを設けてしっかりたてておくと良いと感じた。

## 3) その他の意見等

①全体としてしっかり安全対策が行われていた。ただし、どれだけ対策が行われていても絶対というものはなく、少し油断をすると災害は起こるおそれがある。現在の安全対策に満足することなく、PDCAを回して更なる改善に取り組んでいただくことを期待している。

②ポスターの掲示も行われ、工具類もしっかり整理整頓されていた。現場の通路もしっかり区画されていた。全体としてしっかり管理されている。

③現場がしっかり整理されている。所長や部長などの上位管理職者による巡視が頻度よく行われている効果である。

④夜間休祭日の対応についてもしっかり行われている。



整理整頓された現場



工具掛けボードに整理された工具

## 4) 意見交換後の対象事業者からの挨拶

今回頂きました意見等については、改めて研究所内で整理して活かしていく。また、過去に起きた事故や火災等につきましては決して風化させないようにして事業を進めていく。

## 4. 安全教育に係る協力活動

### (1) 安全教育研修

協定加盟事業所の研修施設を活用して、協定加盟事業所従業員等の資質向上を図るための教育研修について、参加者を募り実施した。

1) 令和6年度 第1回

【開催日】令和6年10月1日（火）

【場 所】日本原子力研究開発機構 原子力人材育成センター

【参加者】協定加盟8事業所から10名参加

【講 師】日本原子力研究開発機構 原子力人材育成センター講師

【研修カリキュラム】

【講 義】① 原子力概論

② 放射線の人体影響と放射線の防護

【実 習】「簡易放射線測定器の取扱い」及び「各種放射線の測定」

研修後に実施したアンケートの結果は次のとおりであった。

【複数の受講者から次の①から⑥までの好評価な回答があった。】

① 講義と実習が両論となり、効果的な研修であった。

② 実習は楽しく、良かった。

③ わかりやすかった。

④ 有意義な研修であった。

⑤ 普段の業務では接することが少ない原子力、放射線、放射線測定について知る機会となった。

⑥ 歴史的な経緯等も解説していただき、良かった。

【一方で、次の⑦から⑫までの要望等があった。】

⑦ 原子力概論は、原子力の基礎知識を有する受講者には「適当な難度」であったが、そうでない受講者の一部には「専門的すぎた」。

⑧ 概論の時間を短くして、グローブボックスの見学などを入れてほしい。

⑨ 基礎的な質問はしづらいので可能であれば携帯等で調べながら教育を受けたい。

⑩ 実習時間を長くしてほしい。

⑪ 最初に受講者が一言自己紹介する場を設ければ、どんな人が参加しているのか知ることができる。

⑫ 第1種管理区域からの物品の持出し方法等を見学して、自分の事業所の安全維持に役立てたい。



講 義



実 習 講 義



実 習

## 2) 令和6年度 第2回

【開催日】 令和7年2月13日（木）

【場 所】 日本原子力発電株式会社 東海事業本部 東海総合研修センター

【受講者】 協定加盟3事業所から4名参加

【講 師】 日本原子力発電株式会社 東海事業本部 東海総合研修センター講師  
東海・東海第二発電所 総務室 渉外・報道グループ 講師

【研修カリキュラム】

（講和）東海第二発電所の近況について

（実習）①身の周りの放射線測定体験

②シミュレータによる運転体験

（見学）東海第二発電所フルスコープシミュレータ見学

研修後に実施したアンケートの結果は、次のとおりであった。

[受講者から次の好評価な回答があった]

① 東海第二発電所の近況について

- ・よく分かりました。早く再稼働できる様に頑張ってください。
- ・防潮堤の建設や、電源確保の多様化など様々な安全対策を知ることができた。
- ・新しい基準に基づいて安全性を高める工事を行っているということで運転再開しても安心できるということが分かってよかった。

② 身の周りの放射線測定体験

- ・大変おもしろかった。
- ・ $\alpha$ 線、 $\beta$ 線、 $\gamma$ 線などいまいち違いが覚えられなかったが、測定を通して学ぶことができた。

③ シミュレータによる運転体験

- ・詳しく説明頂きよく分かりました。
- ・貴重な体験ができ、よかった。

④ 研修全般にわたっての意見・要望

- ・貴重な体験を本当に有難うございました。
- ・地元地域や業界において安全性向上のために日々努力されているのが伝わり、研修の機会をいただき有難うございました。
- ・福島原発の事故について現場がどのようになっていたか、対処の仕方について詳しく分かって良いと思った。

[受講者から以下の要望があった]

① シミュレータによる運転体験

- ・もう少し時間が長くていいかと思いました。



講 話



実 習



実 習

【その他】今年度の参加者は定員16名に対して4名と非常に少なかった。参加者はその分密に学習できるが、日本原子力発電株式会社東海総合研修センターが本研修のために時間をとって頂き、また場所を提供して下さいたことを考慮すると、あまりにも少なすぎる。令和7年度も同様に実施する予定であるが、参加者からも大変好評であり、シミュレータによる運転体験やフルスコープシミュレータ見学等貴重な体験も出来るので、より多くの者が参加されるように工夫する。

## (2) 講演会等の開催

原子力事業所安全協力協定加盟事業所からの開催案内はなかった。

## (3) 自衛消防隊研修会結果

### ・研修内容

【開催日】令和6年9月6日（金） 9：00～16：20

【場 所】茨城県立消防学校 屋内訓練場及び屋外訓練場

【講 師】4消防本部 8名

（那珂市消防本部、大洗町消防本部、鹿行広域事務組合消防本部、  
ひたちなか・東海広域事務組合消防本部）

【指導員】4事業所 5名

（日本原子力研究開発機構原子力科学研究所、日本原子力研究開発機構核  
燃料サイクル工学研究所、日本原子力研究開発機構大洗研究所、  
日本原子力発電株式会社）

【参加者】協定加盟10事業所から18名

（日本原子力研究開発機構原子力科学研究所、日本原子力研究開発機構核  
燃料サイクル工学研究所、日本原子力研究開発機構大洗研究所、日本  
原子力発電株式会社、量子科学技術研究開発機構 那珂フュージョン  
科学技術研究所、広域財団法人核物質管理センター、三菱原子燃料株

式会社、MHI原子力研究開発株式会社、積水メディカル株式会社、  
原子燃料工業株式会社)

#### 【訓練概要】

- ① 座学
  - ・自衛消防に関する事項（消防概論）について
- ② 要素訓練
  - ・空気呼吸器等の装着訓練
  - ・傷病者の搬送方法及びロープワーク訓練
  - ・消防自動車からの放水・吸水訓練
- ③ 総合訓練  
指揮隊（含支援隊）、消火隊、救助隊に分かれて、実放水を含む火災防  
御・救出訓練を実施（想定：平屋事務所より出火、延焼中。職員2名  
逃げ遅れ。）

令和6年度原子力事業所安全協力協定自衛消防隊研修会を、2年ぶりに茨城県  
立消防学校で開催した。

（令和5年度は台風接近に伴い中止）

今年度で16回目となる本研修会は、参加者を自衛消防隊の初心者を中心に募  
集した。

午前中は、主催者である安全協力委員会委員長の開会挨拶に続き、体育館で座  
学（自衛消防に関する事項（消防概論））、体育館及び校庭で要素訓練（① 空気呼  
吸器等の装着訓練、② 傷病者の搬送方法及びロープワーク訓練、③ 消防車から  
の放水・吸水訓練）を行った。

午後は直射日光が降り注ぎ気温が上昇したため、車庫内の日陰を最大限活用  
して車庫付近で総合訓練を行った。訓練は、参加者があらかじめ消防関係車両3  
台に分乗し、火災現場に到着（想定）したところから開始された。指揮隊の下命  
を受けて、救助隊による建物内からの逃げ遅れ者（人形）の救助、消火隊による  
放水など、実際の火災現場に近い形での訓練を行った。

閉会式では、「茨城県防災・危機管理部 原子力安全対策課原子力防災調整監戸  
澤様」ご講評をいただいた。

茨城新聞社の記者が取材に来られた。

## 5. 安全管理に係る情報の交換等に係る協力活動

### （1）情報交換する項目

#### 1）法令報告事象などプレス発表された事故、トラブル情報

情報の発信元となる事業所から加盟事業所に発信された情報を以下に示す。

「原子力施設周辺の安全確保及び環境保全に関する協定（以下「原子力安全

協定」という。)に基づき発信された情報は『原子力安全協定に基づく』と記載した。

① 日本核燃料開発株式会社

(a) 不適切なセル負圧警報計器等点検／放射性廃液タンク等点検について

(不適切なセル負圧警報計器等点検：令和5年7月20日事象把握)

(不適切な放射性廃液タンク等点検：令和5年7月27日事象把握)

- ・「茨城県原子力安全対策委員会で、再発防止策が審議・承認されたこと」が、令和6年10月2日に配信された。

(b) 材料研究棟 精密測定室における火災について

(令和6年3月15日発生)

- ・『原子力安全協定に基づく』(第2報)「材料研究棟 精密測定室の火災における事象・原因分析・再発防止策について」が、令和6年11月13日に配信された。

② 株式会社ジェー・シー・オー

(a) 電源盤内コンセントプラグにおける焦げ跡の発見について

(令和5年10月17日発生)

- ・『原子力安全協定に基づく』(第2報)「電源盤コンセントプラグにおける焦げ跡の発見について」が、令和6年8月23日に配信された。

(b) 総合排水処理棟における火災について

(令和6年10月23日発生)

- ・10月23日に発生した「総合排水処理棟における火災について」が、令和6年10月24日に配信された。
- ・『原子力安全協定に基づく』(第1報)「総合排水処理棟における火災について」が、令和6年11月1日に配信された。

③ 日本原子力発電株式会社 東海・東海第二発電所

(a) 東海第二発電所における天井照明の焦げ跡の確認について

(令和5年10月31日発生)

- ・『原子力安全協定に基づく』(第2報)「東海第二発電所 原子炉建屋2階北東側天井照明安定器の焦げ跡の確認について」が令和6年12月26日に配信された。

(b) 東海第二発電所モルタル建屋における空気圧縮機からの発煙の確認について(令和5年11月7日発生)

- ・『原子力安全協定に基づく』(第2報)「東海第二発電所 モルタル建屋

1階空気圧縮機からの発煙について」が令和6年12月26日に配信された。

- (c) 東海・東海第二発電所における屋外照明用ブレーカーからの火花の確認について（令和5年11月9日発生）
  - ・『原子力安全協定に基づく』（第2報）「東海第二発電所 屋外照明用ブレーカーからの火花の確認について」が令和6年12月26日に配信された。
- (d) 東海第二発電所における天井部電線管の火花等の確認について（令和6年2月2日発生）
  - ・『原子力安全協定に基づく』（第2報）「東海第二発電所 原子炉建屋2階北西側天井部電線管付近の火花及び焦げ跡らしきものの確認について」が令和6年12月26日に配信された。
- (e) 東海・東海第二発電所 原子力館（PR館）電源盤内における焦げ跡の確認について（令和6年11月21日発生）
  - ・11月21日に発生した「東海・東海第二発電所 原子力館（PR館）電源盤内における焦げ跡の確認について」が、令和6年11月25日に配信された。
  - ・『原子力安全協定に基づく』（第1報）「東海発電所・東海第二発電所 原子力館電源盤内における焦げ跡の確認について」が、令和6年12月2日に配信された。
- (f) 東海第二発電所 溶接作業中の着衣への引火による作業員の負傷について（令和6年12月9日発生）
  - ・12月9日に発生した「東海第二発電所 取水口エリアにおける溶接作業中の着衣への引火による作業員の負傷について」が、令和6年12月11日に配信された。
  - ・『原子力安全協定に基づく』（第1報）「東海第二発電所 取水口エリアにおける溶接作業中の着衣への引火による負傷者の発生について」が、令和6年12月23日に配信された。
  - ・『原子力安全協定に基づく』（第2報）「東海第二発電所 取水口エリアにおける溶接作業中の着衣への引火による負傷者の発生について」が令和7年1月27日に配信された。
- (g) 東海第二発電所 中央制御室内制御盤における火災について（令和7年2月4日発生）
  - ・2月4日に発生した「東海第二発電所 中央制御室内制御盤における火災の発生について」が令和7年2月5日に配信された。
  - ・『原子力安全協定に基づく』（第1報）「東海第二発電所 中央制御室内制御盤における火災の発生について」が令和7年2月13日に配信され

た。

④ 日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所

(a) 核燃料サイクル工学研究所 個人被ばく管理棟における火災について  
(令和6年2月16日発生)

- ・『原子力安全協定に基づく』（第2報）「個人被ばく管理棟における火災について」が、令和6年4月8日に配信された。

(b) 再処理廃止措置技術開発センター内管理事務棟における蛍光灯安定器付近からの火花・発煙について（令和6年6月17日発生）

- ・「再処理センター管理事務棟における火花及び発煙の発生について」が、令和6年6月18日に配信された。
- ・『原子力安全協定に基づく』（第1報）「再処理廃止措置技術センター内管理事務棟における蛍光灯安定器付近からの火花・発煙について」が、令和6年7月17日に配信された。
- ・『原子力安全協定に基づく』（第2報）「再処理廃止措置技術開発センター内管理事務棟における蛍光灯安定器付近からの火花・発煙について」が、令和6年11月18日に配信された。

⑤ 日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所

(a) タンデム加速器建家における焦げ跡の発見について（令和6年5月22日発生）

- ・「タンデム加速器建家における焦げ跡の発見について」が、令和6年5月22日に配信された。
- ・『原子力安全協定に基づく』（第1報）「タンデム加速器建家における焦げ跡の発見について」が、令和6年6月3日に配信された。
- ・『原子力安全協定に基づく』（第2報）「タンデム加速器建家における焦げ跡の発見について」が、令和6年8月1日に配信された。

(b) J-PARCリニアック棟における焦げ跡の発見について（令和6年7月5日発生）

- ・「J-PARCリニアック棟における焦げ跡の発見について」が、令和6年7月5日に配信された。
- ・『原子力安全協定に基づく』（第1報）「J-PARCリニアック棟における溶融痕の確認について」が、令和6年7月12日に配信された。
- ・『原子力安全協定に基づく』（第2報）「J-PARCリニアック棟における溶融痕の確認について」が、令和6年9月27日に配信された。

(c) JRR-3の計画外自動停止について（令和6年11月25日発生）

- ・11月25日に発生した「JRR-3の計画外自動停止について」が、11月26日に配信された。

(2) 各事業所の判断で情報交換するもの

1) フォーラムの開催等安全管理上有益な情報（加盟事業所が参加可能なもの）  
情報提供はなかった。

2) 緊急時を想定した訓練に係る情報（加盟事業所が視察可能なもの）

原子力事業所安全協力協定加盟事業所原子力防災訓練見学会

日本原子力研究開発機構 大洗原子力工学研究所

（大洗原子力工学研究所・日本核燃料開発株式会社同時発災）

【開催日】 令和6年12月3日（火） 12:45～16:00

【参加者】 協定加盟3事業所から4名参加

【事故想定】

茨城県沖を震源とする地震（大洗町、銚田市：震度6弱）により、JMTRで原災法第15条事象（使用済燃料貯蔵槽の冷却機能喪失・放射線放出）が発生するとともに、日本核燃料開発株式会社から放射性物質が漏えいするとの想定で訓練が行われた。



緊急時対策所



負傷者の救急搬送



模擬プレス

3) 安全管理に有用な情報

情報提供はなかった。

6. 緊急事態を想定した協力活動訓練

(1) 訓練

1) 令和6年度 東海ノア総合訓練

東海ノア協定に基づく令和6年度の通報連絡を主体とした総合訓練は、令和6年7月3日（水）に国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 那珂フュージョン科学技術研究所を発災事業所として実施した。

協力要請を全加盟事業所に通報連絡、東海地区活動本部要員を東海地区活動本部

に模擬出動、大洗地区活動本部要員を二次招集として、総合訓練シナリオに基づき、通報連絡を主体とした訓練を実施した。

通報連絡系統に基づく連絡が迅速に行われ、関係者への通報連絡及び緊急事態協力活動本部要員の招集に問題ないことを確認した。

## 2) 原子力科学研究所非常事態総合訓練、東海発電所・東海第二発電所原子力防災訓練

令和7年2月25日(月)に実施された日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所を発災事業所とする非常事態総合訓練及び日本原子力発電株式会社 東海発電所・東海第二発電所を発災事業所とする原子力防災訓練で、発災事業所である原子力科学研究所、東海発電所・東海第二発電所からの情報提供を受け、東海ノア協定加盟全事業所に電子メールによる情報共有を行う訓練を実施した。

## (2) 緊急事態発生時における協力体制の整備

緊急事態協力活動本部要員等に変更が生じた都度、緊急事態協力活動本部要員登録者等の更新を行った。

## 7. その他（県等からの協力依頼）

### （1）令和6年度 茨城県通報連絡訓練

- 【訓練実施期間】 令和6年7月3日（水）～8月30日（金）（実績）
- 【東海ノア協定事務局への通報】 4事業所（量子科学技術研究開発機構 那珂フュージョン科学技術研究所、日本照射サービス株式会社 東海センター、積水メディカル株式会社 創薬支援センター、日本原子力研究開発機構 大洗研究所）
- 【対応結果報告】 令和6年9月3日（火）に県へ送信

### （2）令和6年度緊急被ばく医療関連情報連絡会原子力事業所見学会

- 【開催日】 令和7年1月23日（木）
- 【施設】 日本原子力発電株式会社 東海事業本部 東海第二発電所
- 【参加者】 協定加盟事業所からは12名／5事業所
- 【見学内容】

地域共生部幹部挨拶の後、発電所幹部より東海第二発電所安全性向上対策工事の概要説明等を受け、本人確認手続きの後、一時立入者カードが貸与され、2班に分かれ、一班は原電社有バス内から東海第二発電所構内の現場工事の実施状況を、もう一班は原子力館屋上へ移動し発電所全景を入れ替りで視察した。

原電社有バス内からの現場視察では、発電所の主要施設（東海第二発電所・東海発電所（廃止措置工事中）・ドライキャスク建屋等）、防潮堤設置工事、常設代替高圧電源装置置場設置工事、主排気筒耐震補強工事などを、発電所幹部からの説明を交えて約30分程度かけて行われた。原子力館屋上からの視察では、発電所の全景及び緊急時対策所建屋工事を視察した。視察の後、質疑応答等が行われ予定通りに本見学会を終了した。



防潮堤設置工事の状況



常設代替高圧電源装置置場設置工事の状況



主排気筒耐震補強工事の状況

（掲載写真は原電より提供）

(3) 令和6年度緊急被ばく医療関連情報連絡会講演会

【開催日】 令和7年2月21日(金)

【開催方法】 Webex

【参加者】 協定加盟事業所からは16名/10事業所

【内容】

講演「今そこにある被ばく＝医療での被ばく調査研究から見えてくる現状＝」

講演の概要は以下の通り

令和5年度、医療従事者の目や皮膚に放射線障害がおきているか調査を行い、162人の被検者(被ばく回数:100回弱/年の整形外科医)から回答を得る事ができた。

調査結果、白内障の変化(初期の白内障及び実際に白内障と診断された者)が64例(回答者の約40%)みられ、また指先の爪や皮膚に炎症もみられた。更に、被ばく線量が多い人ほど発症率が高くなる傾向が見られた。

これらの結果から、翌年、証拠を押さえる事に重点を置いて調査を行ったところ、個人線量計の使用率が3割程度、防護具の使用率が3~4割程度であったこと、更に放射線障害特別教育(電離則で定める特別教育)の受講については多くの医師が知識充分であるとの事で受講しておらず、看護師については多量被ばくの恐れがないとして対象外としているところが多いことが判明した。

医療現場で被ばく状況をシミュレーションした結果、軽装備の看護師が一番被ばくしていること、防護板等の防護具を正しく使用しないと医療従事者が多量の被ばくをする確率が高くなることも判明した。

結果を受けて、個人線量計の使用の徹底や防護具等の正しい使用の徹底等を依頼している。

医療従事者の被ばくは現在も続いており、その影響も大きいので、今後も調査を継続すると共に対策を講じなければならない。通り一遍の座学よりもブリーフィング等が有効である。整形外科医の放射線障害、特に手指の癌有病率は想像を超えている。また、電離則の検診だけでは過少評価になりがちなので何らかの形でフォローしていかなければならない。

尚、本講演会では原子炉施設の被ばくについては直接触れられていなかったが、多量被ばくによる人体への影響他、個人線量計や保護具等の正しい使用、放射線障害特別教育等、施設に従事する者として心得ておかなければならない事が多くあった。

## 8. 広報活動

### (1) ホームページの維持管理

ホームページ情報の維持管理に努め、東海ノア協定に基づく活動状況を適宜紹介した。

#### 1) ホームページの更新

- ① 令和6年6月28日
- ② 令和6年9月30日
- ③ 令和6年12月26日
- ④ 令和7年3月25日

以 上

令和6年度 年間活動基本計画実績表（原子力事業所安全協定運営要項第2条第1項に基づく）

|  | 令和6年   |           |          |             |          |           |                              |          |           | 令和7年   |            |           |   |            |           |            |          |           |           |           |         |          |
|--|--|-----------|----------|-------------|----------|-----------|------------------------------|----------|-----------|--|------------|-----------|---|------------|-----------|------------|----------|-----------|-----------|-----------|---------|----------|
|  | 4月   | 5月        | 6月       | 7月          | 8月       | 9月        | 10月                          | 11月      | 12月       | 1月   | 2月         | 3月        |   |            |           |            |          |           |           |           |         |          |
| 1. 安全協力委員会   |  |           |          |             |          |           | ▲10/30 第51回                  |          |           | 第52回▲3/12  |            |           |   |            |           |            |          |           |           |           |         |          |
| 2. 活動推進幹事会   | ▲6/11 第107回  |           |          | ▲9/27 第108回 |          |           | ▲12/19 第109回                 |          |           | 第110回▲3/3  |            |           |   |            |           |            |          |           |           |           |         |          |
| 3. 自主保安に係る点検協力活動   |  |           |          |             |          |           |                              |          |           | ▲11/27 量研機構  |            |           |   |            |           |            |          |           |           |           |         |          |
| 4. 安全教育に係る協力活動<br>(1) 安全教育研修<br>(2) 講演会・講習会<br>(3) 自衛消防隊研修   | ▲6/12 県立消防学校及び4消防本部協力依頼  |           |          |             |          |           | ▲10/1 第1回（原子力機構）<br>人材育成センター |          |           | ▲2/13 第2回（原電）<br>総合研修センター                                      |            |           |   |            |           |            |          |           |           |           |         |          |
| 5. 情報の交換等に係る協力活動<br>(1) 情報交換する項目<br>・事故・トラブル情報<br>（プレス情報発信等）<br><br>(2) 事業所判断での情報交換<br>・参加可能なフォーラム等<br>・視察可能な訓練<br>・安全管理に有用な情報 | ▲4/8 核サ研   | ▲5/22 原科研 | ▲6/3 原科研 | ▲6/18 核サ研   | ▲7/5 原科研 | ▲7/12 原科研 | ▲7/17 核サ研                    | ▲8/1 原科研 | ▲8/23 JCO | ▲9/27 原科研  | ▲10/24 JCO | ▲11/1 JCO | ▲11/13 日本核燃   | ▲11/18 核サ研 | ▲11/25 原電 | ▲11/26 原科研 | ▲12/2 原電 | ▲12/11 原電 | ▲12/23 原電 | ▲12/26 原電 | ▲2/5 原電 | ▲2/13 原電 |
| 6. 緊急事態を想定した協力活動<br>(1) 訓練<br><br>(2) 協力体制の整備  | ▲7/3 東海ノア総合訓練<br>（発災事業所：国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構<br>那珂フュージョン科学技術研究所）<br>（茨城県通報連絡訓練に連動して、通報、招集（模擬）を実施） |           |          |             |          |           |                              |          |           | ▲2/25 非常事態総合訓練<br>（発災事業所：原電、原科研）<br>（協定加盟全事業所に電子メールによる情報共有を実施） |            |           |   |            |           |            |          |           |           |           |         |          |
| 7. その他(県等からの協力依頼)  | [茨城県通報連絡訓練 訓練期間(実績) 7/3~8/30]  |           |          |             |          |           |                              |          |           | ▲9/3 茨城県通報連絡訓練対応結果報告を<br>県に送信                                  |            |           | ▲1/23 緊急被ばく医療関連情<br>報連絡会原子力事業所見学会（原電）<br>▲2/21<br>緊急被ばく医療関連情報連絡会講演会 |            |           |            |          |           |           |           |         |          |
| 8. 広報活動(ホームページ運営)  | ▲6/28  |           |          | ▲9/30       |          |           | ▲12/26                       |          |           | 3/25▲  |            |           |   |            |           |            |          |           |           |           |         |          |